

◆文庫あれこれ◆

◆来てくださるみなさんあって、沙羅の樹文庫は10歳になりました。伊豆新聞をご覧の方も多いと思いますので、細かいことはここではカットします。◆さて、せっかくの10周年だから今回の文庫便りは何か趣向をと考えましたが、ぼーっとした頭からは何も生まれません。そこで、この10年間の7月の文庫便りを読み返し、勝手に感慨にふけった結果のお粗末、No.11(2007年7月号)の形式をトレースする知恵しかうかばず、ごめんなさい。◆この時期はよく台風の接近があり、「海の日のおはなし会」は大丈夫かしらと、心配する日々だった気がします。今年も無事、楽しいおはなし会が実施できますように!ひとりでも多くの方が参加してくださいますように♥(雨なら、駅構内、改札正面奥のあたりでやれたら、と思っています。)◆表紙面にネットからとった城ヶ崎(多分)の岩場の写真を載せました。とても懐かしい場所です。若かりし頃、夏になると、従妹たちと、BF(今は夫)と泳ぎに行きました。水の中が透き通り、黒鯛なんか泳いでいましたっけ。◆海を見ていると、小田原過ぎて、熱海を過ぎる頃には、だんだん心が解きほぐされてゆきます。いつまで、文庫通いができるやら。◆文庫は、本を読み、探しに、借りに来てくださる方々がいてこその一歩一歩です。沙羅の樹も小学生に例えれば4年生です。少しおとなっぽい風情もみせるようになる年頃です。きっと文庫にご意見・ご不満をお持ちでしょうが、微力な館主です。これまで同様、お支えください。 (西村) ★今号の写真も秘湯めぐり夫の撮影。



称名滝(立山)・落美日本一

これからの催し物予定
 第16回海の日のおはなし会
 於：伊豆高原駅広場 大きなクスノキの下
 日時：17日(日) 4:30~7:00pm
 文庫開館10周年記念子どものためのおはなし会
 日時：18日(月) 10:00~11:30am (文庫にて)
 夏休み文庫特別開館期間
 ★8月13日(土)~17日(水)
 ※変則第2週土・日です。
 文庫の本で宿題や調べものをやってみましょう!
 お盆休みに見えたお孫さんと文庫の本を借りて
 子どもの本を読みましょう!

◆今後の開館スケジュール◆

- ◆8月は、変則第2土日(13, 14)から、17日(水)まで連日開館予定。
- ◆9月は通常17(土)、18(日)の両日
- ◆10月は通常15(土)、16(日)の両日
- ◆11月は通常19(土)、20(日)の両日
- ◆12月は通常17(土)、18(日)の両日

文庫の時間は土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

- ◆毎月開館日の日曜には、子どものための小さなおはなし会があります。
午前10:30~11:00
- ★おはなし沙羅の勉強会
毎月開館土曜日 11:00~13:00
読みかきせの練習・本選びの勉強にもどうぞ

沙羅の樹文庫だより
 No.119
 (2016年7月号)



城ヶ崎(吊り橋から見える岩場でしょうか?)

箱根路をわが越えくれば 伊豆の津や
 沖の小島に 浪の寄る見ゆ

(実朝)

場所は伊豆山あたりからでしょうか、ふと、思いだした薄幸の文(武?)人の歌

沙羅の樹文庫も何とか皆さんに支えられて10歳を迎えることができました。10年前の活力はありませんが、身の丈にあったサービスで、もう少し、続けたいと思います。皆さんもお元気で、これからも、本と人との出会いを楽しみに、月1回文庫へ、おいで下さい。

2016年7月に読んだ本についての感想 2016.7.14 by 森林浴

『戦後70年につぼみの記憶』橋本五郎編 読売新聞取材班著 中央公論新社刊 2015年12月第1版
 太平洋戦争の終結から70年——昭和20年=1945年から平成27年=2015年まで丁度70年経った——を契機に読売新聞社の総力を挙げて作つたらしい、太平洋戦争とその後の日本の記録であり、豊富な写真やインタビューでいっぱいの時機をえた出版である。新聞社でなければなかなかこういう本はできない。今戦争体験者は次々に亡くなっている。そのうち独りもいなくなるだろう。そういう意味では今が戦争を書き留めておく最後のチャンスかもしれない。(インタビューの対象になったひとの多くが、80歳・90歳以上で、あれまだこの人は生きていたのかと驚かされるケースも多い。) 巻頭に橋本五郎が書いている「戦後日本の歴史的意义」は読売新聞社の信念ともいうべき70年間の歴史の総括であろうが、亡き国際政治学者 高坂正堯を高く評価しその歴史判断を尊重して書かれている。2016年現在の安倍晋三首相には評価されるだろう論法だが-

『ピカソ 20世紀美術断想』粟津則雄著 生活の友社刊 2016年2月第1版

これは20世紀最大・最高の画家ピカソ作品・制作を丹念に記録した名作ではないだろうか。まず文章が洗練されていて、「文学」というレベルになっている。著者は世界中を歩いて、各地に散らばっている膨大な数のピカソの作品を自分でよく見ている。

ちょっと惜しいなと感ずるのは、作品の写真。殆どが小さく黒白なのが残念だが、これを大きく色刷りにしたら、本の定価は1万円以上になるのだろうか、と思うが。

それにしてもピカソという男、おそらく何百年に一人しか出ないと言っても誇張ではない、とてつもない才能・エネルギー・幸運に恵まれた天才だ。(最近田中角栄などを天才とあがめる日本の出版物が多いが、天才と言うのはめつたにいいものではない、こういう言葉はいい加減に使わないようにして欲しいものだ。)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

『魂の自由人』(曾野綾子著 光文社)を読んで 川上 良枝

タイトルに魅かれて読み始めました。作者は、ずっと、「魂の自由人」になりたかった、と書いています。そしてこれは、人生にとって非常に大切なことで、「身体と魂の自由は、対をなす重大な要素」だと考えていると。

そして、.....

「コリントの信徒への手紙7章29~31節」この部分を読むと、いつも私は一人で自分を笑いたくなる。

愚かなものを買った、そして、自分自身の愚かさを笑うことが出来る、——ということは、間違いなく魂の解放につながることを、発見した。それは私が自分を見つめるもう一つの眼を持つてということになったことも意味するだろう。

「持っいても持たないように」することには、十分な意味がある。心の自由につながる。

私も若い頃いろいろなものに憧れ、振り回された。でも今は、気になりながらも、愚かさあふれる自分をなでなでしながら、フンフンと笑い飛ばしている。

手紙や名刺や写真を種に誰それと親しいという印象を与える行為は、それだけで、「囚われている人」であり、「魂の自由人」ではない。

人間の眼が囚われ易く、不自由になっていて、先入観を通してしか判断できないものか(サマーセット・モームの「詩人」を通して)。

今でも死んだ猫の浩然とした生き方を見事だと思っている。彼女は自分の舌しか信じなかった。評判もブランドも無縁であった。人間はしばしば猫に劣る。自信も眼もなく、自分で判断する自由も持たない魂の不自由人に簡単に成り得るのである。.....

このようなことを述べた後、作者は終りに、「魂の自由人」として暮らすことは、生涯を通しての見果てぬ夢であったと書いています。

そして、.....

最後に辿りついた必需品は、「諦めと絶望」であると。又、こういう時、人生に対して、常に積極的にある人たちは、生理的に不快に感じるであろう。しかし、私の諦め、私の絶望は、決してなげやりなものではない。と。

私も、そう感じます。諦めた時に始まります。絶望した時の自分が好きです。何にも囚われず、心が静かになってくると、自分の呼吸さえもいとおしく、生きているのか、死んでいるのか、わからない感じで、とてもおだやかで.....、そして感謝、すべてに感謝の念でいっぱいになります。

でも私には、後があります。明日はまた、不安にさらわれ、作者がいう、地球上にうごめく数十億の虫けらのような人間となり、悲惨と共生してしまうのです。

16年7月に入った子どもの本

絵本

『**そらまめくんのベッド**』(なかやみわさく・え 福音館書店) ID12119※request

読み物ほか

『**きかせたがりやの魔女**』(岡田淳作 偕成社 2016) ID12118

『**そして 谷川俊太郎自選詩集**』(谷川俊太郎著 銀の鈴社 2016) ID12117

『**あいうえお**』(新井竹子著 たんぽぽ出版 2016) ID12058

『**ありがとう、パティ**』(吉田太郎著 セブン&アイ出版) ID12107

『**コロポックルに出会うまで**』(佐藤さとる著 偕成社 2016) ID12050※新刊寄贈

『**アンドルー・ラング世界童話集**』: 第1巻あおいろの童話集/第2巻あかいろの童話集/第3巻みどりいろの童話集/第4巻さいいろの童話集/第5巻ももいろの童話集/第6巻はいいろの童話集/第7巻むらさきいろの童話集/第8巻べにいろの童話集/第9巻ちやいろの童話集/第10巻だいたいいろの童話集/第11巻くさいいろの童話集(アンドルー・ラング編 西村諄子訳 東京創元社) ID12061~11

※12巻ふじいろの童話集は既に在庫 ID7153

☆**広瀬おばさんからの絵本**☆

『**ヒッコロゴロはつくしゅんひめ**』(グデュル文 マルジョラン・ポティ絵 ふしみみさお訳 らんか社) ID12085

『**300年まえから伝わる とびきりおいしいデザート**』(エミリー・ジェンキンズ文 ソフィー・ブラッコール絵 横山和江訳 あすなろ書房) ID12086

『**とんでもない**』(鈴木のりたけ作・絵 アリス館) ID12087

『**あしたが好き**』(指田和文 阿部恭子絵 ポプラ社) ID12096

『**クルツのごきげんしゃしんかん**』(加藤晶子 講談社) ID12098

『**なぜ イヌの鼻はぬれているの?**』(ケネス・ステューブン文 オイヴァン・トールシェーテル絵 西村書店) ID12100

『**たまこおばあちゃんたびにでる**』(ませぎりえこ作 偕成社) ID12101

『**なぞなぞでおやしきたんけん**』(石津ちひろ文 こみねゆら絵 アリス館) ID12102

『**ショッピングカートのぼうけん**』(ビビ・デュモン・タック文 ノエル・スミット絵 徳間書店) ID12103

『**ほくのおばあちゃんはキックボクサー**』(ねじめしょういち作 山村浩二絵 くもん出版) ID12104

『**きかんしゃトーマス 探せ!! 謎の海賊船と失われた宝物**』(ウィルバート・オードリー原作 ポプラ社) ID12105

『**ののちゃんのママごっこ**』(ひがしあきこ作・絵 くもん出版) ID12106

『**まりひめ**』(岩崎京子作 市尾みか絵 すずき出版) ID12108

『**まだかな まだかな**』(竹下文子作 えがしらみちこ絵 ポプラ社) ID12109

『**シロクマくつやーちいさなちいさなうぐつ**』(おおでゆかこ作 偕成社) 『**海底電車**』(松本猛構成・文 松森清昭絵 童心社) ID12111

『**ヘそのかくれが**』(中西翠文 かべやふよう絵 アリス館) ID12112

『**おうさまのくつ**』(ハレン・ビル文 ルイス・スロポドキン絵 こみやゆう訳 瑞雲舎) ID12113

『**あらいぐまのヨッチー**』(デイビッド・マクフェイル作・絵 三原泉訳 徳間書店) ID12114

『**ごほんのじかん**』(レベッカ・コップぶん・え おーなり由子訳 ポプラ社) ID12115

『**いいわけサウルス**』(おおなり修司文 丸山誠司絵 絵本館) ID12116

「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展」

(於: 世田谷文学館)

7月のはじめ、行ってきました。圧巻でした。子どもの本を読まない方も、国際アンデルセン賞作家で、昨年の本屋大賞1位(鹿の王)で、この春にNHK放映の綾瀬はるか主演ドラマ「精霊の守り人」の原作者と言えばご存じでしょう。作家は偶然の産物ではないのだと実感。専門の文化人類学も彼女の物語世界を築くステップだったのですね。旅先で撮った写真も上橋ワールドへ誘って絶品。

愛読書をメモってきましたので、at randomに載せますね。高学年からのみんな、そしておかあさん、ご一読を。ああ、おんなじ、おんなじと思うはず。まだ読んでない人はぜひぜひ。結構文庫にあります。

……『木かげの家の小人たち』『子供の四季』『指輪物語』『ふくろう模様皿』『山んぼと空と白馬』『雪のたから』『日本の歴史1 幻の大陸と死の都』『ギリシア人』『ホビットの冒険』『ライオンと魔女』『トムは真夜中の庭で』『ツバメ号とアマゾン号』『この楽しい日々 上・下』『ギリシア・ローマ神話 上・下』『クリスマス・キャロル』『銀のほのおの国』『イシ』『わんぱく天国』『アルプスの少女』『星に叫ぶナルガン』『ハヤ号セイ川をゆく』『グリーン・ノウの煙突』『王のしるし』『銀の枝』『時の旅人』『海の花ご』『思い出の青い丘』『海賊の島』『まぼろしの丘』『シェパード大佐の時計』『ハイフォースの地主屋敷』など。特にトールキン、サトルフ、ピラス、ポストンに惹かれたようです。ルーシー・ポストンとはマナーハウスを訪れ、交流がありました。

上記、文庫にある本も多いです。ないものはまた少しづつ入れましょう。「守り人シリーズ」もまだ続いていたのですね。文庫には、主人公『バルサの食卓』という本もあります。(さ・ら)

16年7月に入ったおとなの本

フィクション

『**希望荘**』(宮部みゆき著 小学館 2016) ID16747

『**マチネの終わりに**』(平野啓一郎著 毎日新聞出版 2016) ID16748

『**殉教者**』(加賀乙彦著 講談社 2016) ID16751

『**ジャックはどこで飲んでいる**』(片岡義男著 文藝春秋 2016) ID16749

『**と、彼女は言った**』(片岡義男著 講談社 2016) ID16750

『**わたしたちの、小さな家**』(水沢秋生著 光文社 2016) ID16752

『**老生**』(賈平凹著 吉田富夫訳 中央公論新社 2016) ID16753

『**スーフ**』(イーヴリン・ウォー著 白水社 2016) ID16754※request

フィクション以外

『**村に火をつけ、白痴になれ 伊藤野枝伝**』(栗原康著 岩波書店) ID16755※request

『**石川啄木**』(ドナルド・キーン著 角地幸男訳 新潮社 2016) ID16756

『**星はらはらと 二葉亭四迷の明治**』(太田治子著 中日新聞社 2016) ID16757

『**武者小路実篤とその世界**』(直木孝次郎著 境書房 2016) ID16758

『**我が家の内輪話 愛蔵版**』(三浦朱門&曾野綾子著 世界文化社 2016) ID16759

『**ラガ 見えない大陸への接近**』(ル・クレジオ著 管啓次郎訳 岩波書店 2016) ID16760

『**戦後の墓碑銘**』(白井聡著 金曜日 2015) ID16761※request

『**海洋アジア v s. 大陸アジア 日本の国家戦略を考える**』(白石隆著 ミネルヴァ書房 2016) ID16762※request

『**暦の手仕事 季節を慈しむ保存食と暮らし方**』(中川たま著 日本文芸社 2016) ID16763

文庫

『**白暗淵**』(古井由吉著 講談社文芸文庫 2016) ID16734

『**ほくは明日、昨日のきみとデートする**』(七月隆文著 宝島社文庫 2016) ID16735

『**罪悪**』(フェルナント・フォン・シーラッハ著 創元推理文庫 2016) ID16736

『**ホセ・ムヒカ 世界でいちばん貧しい大統領**』(ダンサ&トゥルボヴィッツ著 角川文庫 2016) ID16737

『**日本地図のたのしみ**』(今尾恵介著 ちくま文庫) ID16738

新書

『**四季の名言**』(坪内稔典著 平凡社新書 2016) ID16740

『**つながりの作法 同じでもなく違うでもなく**』(綾屋紗月&熊谷晋一郎著 NHK出版生活人新書 2016) ID16739

『**書物の達人-丸谷オ一**』(菅野昭正編 集英社新書) ID16764

『**日露戦争史1~3**』(半藤一利著 平凡社ライブラリー-2016) ID16741~3※request

『**母さんごめん、もう無理だ きょうも傍聴席にいます**』(朝日新聞社会部著 幻冬舎 2016) ID16745

『**インド人の力**』(山下博司著 講談社現代新書 2016) ID16744

『**たそがれの人間 佐藤春夫怪異小品集**』(佐藤春夫著 平凡社ライブラリー-2016) ID16746

寄贈本

『**ラブ・ストーリーを読む老人**』(ルイス・セブルベダ著 新潮社) ID16703※request

『**女教皇ヨハンナ 上・下**』(ドナ・W・クロス著 草思社) ID16701~2※request

『**あしたから出版社**』(島田潤一郎著 晶文社) ID16708

『**映画 ビリギャル**』(坪田信貴著 KADOKAWA) ID16707

『**前世療法へようこそ**』(奥山輝美著 PHP出版) ID16706

『**緑の午後**』(宮迫千鶴著 東京書籍) ID16705

『**EPITAPH 東京**』(恩田陸著 朝日新聞出版) ID16704

『**ミステリー歳時記**』(小泉喜美子著 晶文社) ID16700

『**しがみつかない生き方**』 ID16710

『**葬式は要らない**』 ID16711

『**樹の花にて**』 ID16712

寄贈本・文庫

佐伯泰英著『**小藤次青春抄**』 ID16723

『**新酔いどれ小藤次4 姉と弟**』 ID16724

『**吉原裏同心 24始末**』 ID16721

『**鎌倉海岸捕物帳 控 28 古原詣で**』 ID16765

『**イトウの窓**』(中島京子著 講談社文庫) ID16726

『**三たびの海峡**』(帯木蓮生著 新潮文庫) ID16716

『**ユルスナールの靴**』(須賀敦子著 河出文庫) ID16714

『**誤読日記**』(齋藤美奈子著 文春文庫) ID16729

『**愛読家の死**』(ジョン・ダニング著 ハヤカワ文庫) ID16713



河原ナデシコ